

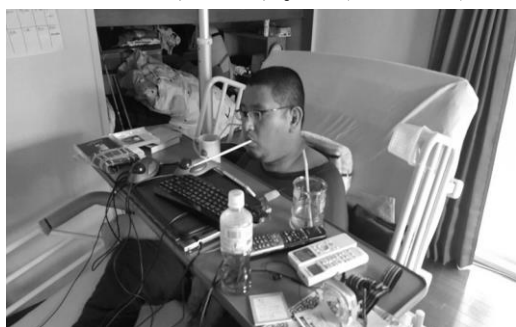
## 責任と権利

広島県 谷本 弘蔵

とかく障害者は生きづらい。特に困った事態に出くわすと自分が障害者であると思知らされる。2015年12月から一人暮らしを始めた。したいと思ったのは8年も前、強い理由があったわけではない、むしろ理由付けは後からついてきている気がする。まず困ったのは部屋だ。工夫はできてもある程度低くないとできない、8年間探せど見つからず、よさそうと思えど断られ。そんなこんなで行ったある家を内覧した帰りに、後輩の親御さんに会い、その家は後輩の親御さんのオーナーの家と発覚。「入れ入れ」とあっさり承諾され、住めることに。頸損人生とはふとした、あっさりとした出会いが多い。そこからは怒涛のヘルパー調整、支援時間の取得、親との相談、家電の買いもの、リフトとベッドの引っ越しがあった。そしていよいよ12月1日、一人暮らしはスタートした。

一人暮らしでまず感じたのは食事の大変さだ。メニュー考えるだって一苦勞。買い物に行くだって自分が見て、値段を考えないと意味がない気がする。これは母はすごいなと感じた。次にあったのは孤独さだ。家族と暮らしていた分、最初テレビがなかったりで、とても静かな日々だった。経験としてはいいが、長くは続かない。そして最後にお金のこと、家賃、食費、光熱費、通信費、交際費…当たり前だがすべて自分の中で回さなければならない。当たり前は当たり前じゃない。父はすごいなと感じた瞬間だった。仕事をしていることの尊さを感じ、節約することも覚えていく、日々どう過ごすかもあるし、体に病気・褥瘡もしてはいけない。たくさんリスクはあるが工夫で潜り抜けていくしかない、我慢もあるが長くは続かないから。こうやって書くと悪いことしかないように思えるがそうではない。日々、工夫し過ごすことは楽しいし、新しいことができる今の環境は楽しい。気兼ねなくできる行動も多い。ようは楽しめるかと、楽しむ心持ちができるかだと思う。「住めば都」とはよく言ったものだ。

今も困ることも多いし工夫しきれないことも多い。けどそれは新しいことで楽しいわけでもある。タイトルに「責任と権利」としたが、これは一人暮らしを始める際に感じた事。権利を主張したければ責任を持たねばならない、と思ったからだ。全てのことに於いてだけど、障がい者は生きにくい、だからといって権利ばかりを主張し、責任を持たないというのは違う。いつも後ろについてきている当たり前なことなのだ。ただ日々出かけて、人に会ったりしてみると人生は偶然なのか運命なのか面白いことがあふれている、生きていてよかったと感じる。親に感謝している、周りに感謝して過ごせること、当たり前前に感謝している。これからも自分のしたいことを追求し、自分の人生を豊かにするため幸せになるために生きていこうと思う。まずは恐れずひるまず、行動し外に出ていこう、そう思う。



PC 作業



台所



玄関